

# J A グループ宮城 災害復興ニュース ( 総合版 )

第 8 9 号

【平成 28 年 6 月 2 日 (木) 発行】  
発行：J A グループ宮城災害復興本部  
編集：J A 宮城中央会  
〒980-0011 仙台市青葉区  
上杉 1 丁目 2 番 16 号 JA ビル宮城 6F  
電話番号：022-264-8207  
FAX 番号：022-216-4466

## 《目次》

1. 担い手サポートセンターが仙台市農業園芸センターに移転、「ワンフロア化」を実現
2. J A グループ宮城が熊本に支援隊。農作業を手伝う
3. 「熊本地震」災害見舞いで、石川会長が J A 熊本中央会を訪問
4. 復興感謝応援キャンペーンに昨年の 2 倍以上、約 1 万 4,000 通の応募
5. 原発事故損害賠償対策宮城県協議会が東京電力に第 57 次請求

## 1. 担い手サポートセンターが仙台市農業園芸センターに移転、「ワンフロア化」を実現

J A グループ宮城は 6 月 1 日、担い手サポートセンターを仙台市若林区の仙台市農業園芸センターに移転し、中央会、J A 全農みやぎ、農林中央金庫仙台支店の担当者が常駐する「ワンフロア化」を実現しました。

今後、同園芸センターを拠点として、J A と各県連が一体となって、全県域で担い手経営体の支援を強化していきます。

開所式には関係者約 60 人が参加。中央会の石川壽一会長は「センターは担い手経営体の多様なニーズに総合的



「頑張ろう」を三唱する担い手サポートセンターの関係者

に対応していく県域のフロント機能であり、担い手経営体の農業所得の最大化を図るため、充実した支援活動が実践されることを期待する」と関係者を激励しました。

全農みやぎ営農企画部 T A C 支援課の大友雅彦課長は「沿岸被災地では、今も進行形で地域農業の担い手が経営体が大規模化・法人化しながら再起しているところです。サポートセンターは、J A グループ宮城の総力を結集し、県内 J A の T A C 活動と連携しながら、農業者の所得向上と生産拡大に向けた支援事業に取り組んでまいります」と宣誓しました。

移転したセンターには、全農みやぎ 14 人、中央会 5 人、農林中金 2 人の計 21 人を配置。J A 共済連宮城は連携プロジェクト会議に参加し、連携して支援事業を展開していきます。

J A グループ宮城は 2014 年 10 月に、東日本大震災で被災した沿岸 5 J A を支援する「担い手経営体支援チーム」を中央会営農農政部内に設置。翌 15 年 10 月には、「担い手サポートセンタ

一」に拡充し、支援活動を全県域で展開してきました。

15年11月の第38回JA宮城県大会では「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」に取り組むことを決議しており、「ワンフロア化」で具体的な支援活動を加速化させます。

## 2. JAグループ宮城が熊本に支援隊。農作業を手伝う

JAグループ宮城は地震で大きな被害を受けた熊本県に支援隊を派遣し、5月10日から12日まで、被災農家の支援活動を行いました。

全国のJAグループからなるJAグループ支援隊の第6陣として参加したもので、県内JAから15人、県連組織から5人の合わせて20人が、9日に現地入りしました。

支援隊は2~5人程度の班に分かれ、JA阿蘇管内の西原村の各農家に配置。農家の要望に応じて、いちごハウスの復旧や特産であるサツマイモの定植作業な



サツマイモの定植を手伝う支援隊（熊本県西原村で）

どを行いました。現地では断水が続いており、復旧作業はまだまだこれから。被災した農家は「東日本大震災は他人事だと思っていたが、自分が被災者になり、JAグループの絆の大切さが初めてわかった」と涙ながらに語り、支援に感謝しました。

## 3. 「熊本地震」災害見舞いで、石川会長がJA熊本中央会を訪問

JA宮城中央会の石川壽一会長と竹中智夫常務は5月9日、熊本県を訪れ、地震で大きな被害を受けたJA熊本中央会に見舞金と支援物資の目録を贈りました。

JA熊本中央会の本所は地震で使用できないため、現在は教育センターにその機能を移しています。今回は、教育センターを訪問する予定でしたが、熊本中央会の梅田穂（ゆたか）会長が、JAかみましきの会長であることなどから、JAかみましき本店での対応となりました。



熊本中央会の梅田会長（中央）に目録を手渡す石川会長

管内の被災状況について、梅田会長は「被害場所は一部地域に偏っている状況だ。トマト、スイカが出荷時期を迎えており被害が大きく、県内の農林水産業の被害は1000億円（農産物は10億円）以上となると推測される。今後は、特に断層等による地割れや農地、水路等農業用施設、畜舎等及び農機具等もだいが被害にあっているため、その対応が重要となってくる」と語りました。

石川会長は「今後、復旧・復興が本格化するにつれ、農業関連への支援等について、熊本中央会の要望をお聞きしながら、全中など全国連と連携をとり、支援していきたい」と語りました。

#### 4. 復興感謝応援キャンペーンに昨年の2倍以上、約1万4,000通の応募

J Aグループ宮城が3月14日から3月27日まで行った「みやぎの『食と農』復興応援感謝キャンペーン2016」の応募が、昨年の約5,000通を大きく上回る約1万4,000通になりました。県外からの応募が9,592通と大幅に増え、復興への関心の高さがうかがえます。はがきでの応募は全体の約3割を60代が占めました。一方、メールでの応募は約半分が30、40代でした。

復興応援メッセージでは、「震災から5年、あの時の食材の有り難さは今でも忘れることのできない鮮烈な記憶です。お米一粒がどんなに有り難かったか。みなさまの支援がどんなにうれしかったか。この教訓を次の世代に語り継がなければ、と思います」（75歳、男性）、「復興までには時間がかかりますが、必ず復活すると信じています。宮城を離れ、1年前から遠くの土地で暮らしていますが、地元のおいしいものを取り寄せて少しでも力になりたいと思っています！がんばろう宮城！」（28歳、女性）などの声が寄せられました。

キャンペーンの当選者約300人には、被災した沿岸5JAの米や野菜、6次化商品などをプレゼントしました。

#### 5. 原発事故損害賠償対策宮城県協議会が東京電力に第57次請求

J Aグループ東京電力原発事故農畜産物損害賠償対策宮城県協議会は5月31日、第57次請求として東電に1億388万円を請求しました。

内訳は、牧草地の除染にかかわる損害が6,996万円、牧草の利用自粛等にかかわる損害が2,938万円、林産物風評被害が445万円などとなっています。

以上